

お正月の寄贈品コーナー

おふだ 千枚の御札

2015年
会期：1月5日（火）～31日（日）

初詣に神社やお寺から御札をいただいた方も多いことでしょう。一年間神棚や床の間に祀られた御札は、その多くがセートバレーと呼ばれる小正月の火祭りでお焚き上げされます。このため、だるまなどの縁起物と同様に古い御札は残りにくい運命にあります。

ところが、稀に旧家の主屋を解体した際に、大量の御札が発見されることがあります。この度、展示する秦野市堀山下の大木伸男家から寄贈された御札も、昭和50年の主屋解体時に、天井裏へ藁縄で束ねられた状態で発見されました。祠や御札入れに納められていた御札を合わせると、その数は千枚を超えます。なぜ、大量の御札が貯められていたのかは不明ですが、たくさんの御札を貯めておくと火伏せの効力が生じるという例があります。

千枚の御札には、毎年新たに神棚へ祀る「天照皇大神宮」の御札が151枚含まれていました。5代前の当主の名が記された御札もあります。また、伊勢神宮から授与された”御祓大麻”には、明治4年に廃止された御師職の名が記されています（写真）。こうしたことから、千枚の御札は少なくとも江戸末期から貯められていたものと考えられます。



近世の箱札「御祓大麻」

千枚の御札からは、江戸時代から平成に至るまでの御札の歴史を学ぶことができます。一軒の家がどんな社寺から御札をいただいていたのか、社寺信仰の範囲を知ることもできます。当時の信仰の有り様を今に伝えるタイムカプセルといえましょう。ぜひご観覧ください。